

2012/3/8

## 柏の景気情報（平成24年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成24年2月分）

○ 調査期間 : 平成24年2月20日 ~ 2月23日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	106	62.0%
建設	47	30	63.8%
製造	36	23	63.9%
卸・小売	49	36	73.5%
サービス	39	17	43.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年2月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは好材料無くふたたび後退 ▶

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.0(前月水準▲28.9)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲23.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲10.3)、製造業▲26.0(同▲16.6)、卸小売業▲52.7(同▲44.4)である。

【建設業】からは、「仕入材料の単価上昇と積算単価に差があり採算が取れない。仕事の量は増加してきているが売上高にむすびつかない」(電気工事業)、「相変わらず業者職人不足が続いている。毎日の応援要請対応が大事な課題となっている。一日でも一人でも手伝ってもらいなとか工期に間に合わせている状況である。ただ年度末が近くなりちょっと落ち着いてきたような感じではある。材料費は相変わらず高騰を続け受注単価はむしろ下がっている。薄利多売といった業況である。工期に間に合わせるための職人の確保のため余計な出費も出ている」(その他の職別工事業)、「千葉県内の同業者の組合が去年1年間で倒産や資金難で8社退会しました。(現在60社・最盛期160社)先月も白井にあった工場が倒産しました。建築は仕事はあれども採算が取れない状態です」(鉄骨鉄筋工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「設備投資関連に若干持ち直しがあつたが、先行きは不透明」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「景気が改善しない。食品業界からは大きな変化、好転へのきざしはきこえてこない」(その他の機械・同部品製造業)、「為替等の影響にて、客先の国内設備投資抑制の傾向が大きく、大変厳しい状態です」(金属加工機械製造業)、「仕事の予定はあるが実際に発注までならない。3月の年度末工事で多少動いたが波がある」(建築用・建設用金属製品製造業)、「直前に予定されている「電気料金値上げ」工場だけで年間数百万円のアップとなり利益圧迫は必至。材料費アップ、電気代アップと利益圧迫材料が出過ぎ状態。企業努力だけではどうなるか不安」(紙製容器製造業)などのコメントがあつた。

【卸小売業】からは、「大口の電気料金の値上げが実施されると節電だけでは対応できず営業時間や他の経費も見直しが必要になってくる。除染作業を見ているとこの先の生活も大丈夫なのか不安になっているお客様も多いようだ」(その他の各種商品小売業)、「今年に入りLPガス、灯油の仕入単価がどんどん上昇して厳しいが、同業他社の改正なく価格転嫁なし。価格改正はおろか従来以上に取り組みが必要である」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人旅行は国内が盛り返してきた。法人需要も先行受付は堅調に推移」(旅行業)、「放射能の影響で来店客数や問合せ数が減少しています」(不動産管理業)、「現況は相変わらずで悪く、来年度を迎えるのが恐ろしい状況です。単価割れや人余りが続々発生すること必至です。ただ、最新の技術を有するIT技術者は不足してるが、悔しくもそれに対抗する玉が育成できておらず。事態、解っていても戦略武装が調えず、大手IT企業には叶わないのか、来年度に向けて、対抗策を描く必要ありと思う。東大阪の「まいど」のように柏地元企業がコラボで、打ち上げたいものです」(ソフトウェア業)などの声が寄せられた。

◎放射能の影響

各業種から、「放射能の影響による人口減が心配である。また東葛地区の農家への風評被害も気になる所です。抜本的な対策をお願いしたい。冬場の電力不足はどうなっているのか?」(各種食料品小売業)、「今後の放射線の除染工事の発注が増加」(土木工事業)、「国か県がある一定の時期に来て、この地区の放射能汚染の終結宣言でも出さない限り、この地域の不動産業界の先行きの見通しは暗い。市内の除染作業がある程度終了しても、柏にすぐ人口が戻ってくるのか疑問である」(不動産代理業・仲介業)、「ついに放射能が原因とみられる集合住宅の退去者が出ました。本建物の除染だけではだめで、街全体に不安があるようです」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「寒い日が続く塗料の乾燥が悪かったり仕上げをやり直したりなど、予定以上の人員がかかってしまい、採算が合わない状況があつた」(塗装工事業)、「2月は気温の低下による都市ガス販売量増加(対前年4%)傾向。家庭での節電・環境負荷低減を実現する。家庭用発電・給湯・暖房システムの販売に向け活動を展開する」(ガス業)、「柏からの客離れが深刻。気候の影響(寒さ)による飲食品、生花など仕入値の高騰あり。節電の効果が消える4月からの電気代値上げの対策が必要」(その他の各種商品小売業)、「前月同様寒冷日続きから主要品目特に葉物は高騰していますが、総体的入荷量が少ない。果実は寒冷地の生産品生産品、りんごイチゴが大幅入荷。高値推移しています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「寒い時期なので畳工事の注文が少なく売上減少。アパートの畳工事の注文に期待。畳小物の販売は横ばい」(内装工事業)、「ウイスキー類、焼酎類の売上減少。(料飲店の消費が減少か?)。低アルコール缶は前年並み」(酒類製造業)、「売上の減少に歯止めがかからないような状況です」(農畜産物・水産物卸売業)、「2月の売上は更に減少。寒さのせいもあり来客数も少なくなったがここ何年もなかったくらいの売上減少。原因を考えると、食べ放題などの安い店舗にお客様が行ってしまっているのか」(農畜産物・水産物卸売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
見通し	▲19.8	▲20.0	±0.0	▲30.5	▲23.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.0(前月水準▲28.9)となり、マイナス幅が▲4.1ポイント拡大した。

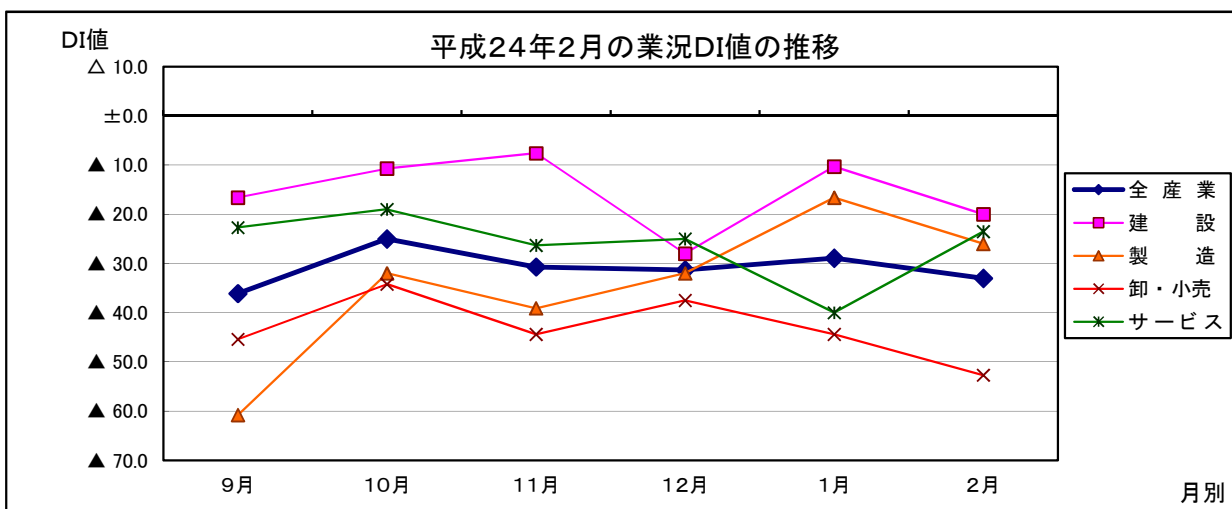
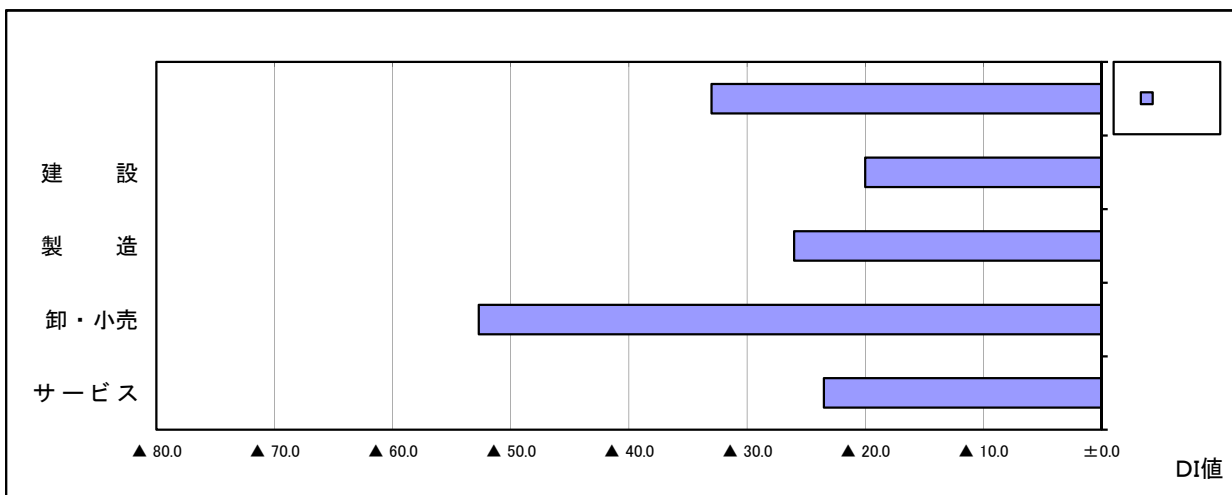
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲23.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲10.3)、製造業▲26.0(同▲16.6)、卸小売業▲52.7(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.8(前月水準▲22.8)となり、プラスマイナス幅が3.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.5(同▲44.0)、製造業±0.0(同▲4.1)である。変わらない見通しの業種は、卸小売業▲30.5(同▲30.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲10.3)である。

平成24年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲36.1	▲25.0	▲30.7	▲31.3	▲28.9	▲33.0	▲19.8(▲22.8)
建設	▲16.6	▲10.7	▲7.6	▲28.0	▲10.3	▲20.0	▲20.0(▲10.3)
製造	▲60.8	▲32.0	▲39.1	▲32.0	▲16.6	▲26.0	±0.0(▲4.1)
卸・小売	▲45.4	▲34.2	▲44.4	▲37.5	▲44.4	▲52.7	▲30.5(▲30.5)
サービス	▲22.7	▲19.0	▲26.3	▲25.0	▲40.0	▲23.5	▲23.5(▲44.0)



【平成24年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.7(前月水準▲27.1)となり、マイナス幅が▲10.6ポイント拡大した。

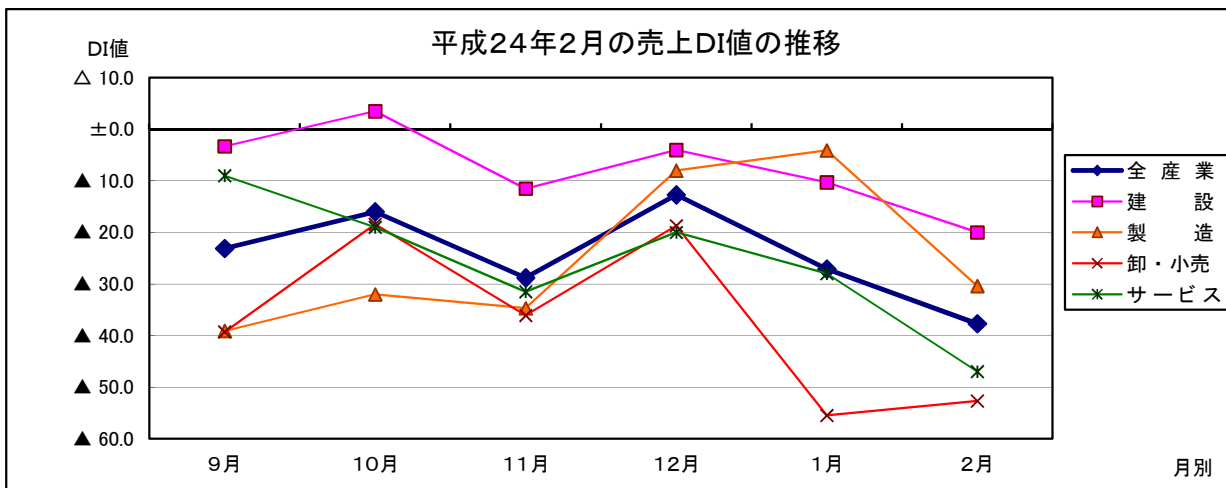
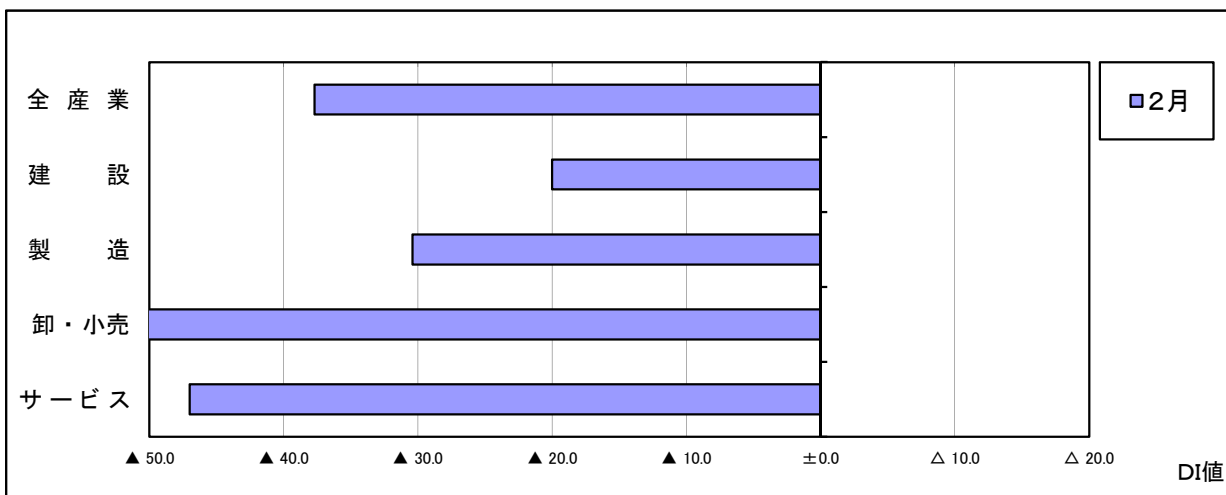
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲52.7(同▲55.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲30.4(同▲4.1)、サービス業▲47.0(同▲28.0)、建設業▲20.0(同▲10.3)である。特に、製造業はマイナス幅が▲26.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.3(前月水準▲9.6)となり、マイナス幅が▲0.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲29.4(同▲40.0)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲6.6(同3.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(同▲5.5)である。

平成24年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲23.1	▲16.0	▲28.8	▲12.7	▲27.1	▲37.7	▲10.3(▲9.6)
建設	▲3.3	△3.5	▲11.5	▲4.0	▲10.3	▲20.0	▲6.6(△3.4)
製造	▲39.1	▲32.0	▲34.7	▲8.0	▲4.1	▲30.4	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲39.3	▲18.4	▲36.1	▲18.7	▲55.5	▲52.7	▲11.1(▲5.5)
サービス	▲9.0	▲19.0	▲31.5	▲20.0	▲28.0	▲47.0	▲29.4(▲40.0)



【平成24年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.6(前月水準▲32.4)となり、マイナス幅が▲7.2ポイント拡大した。

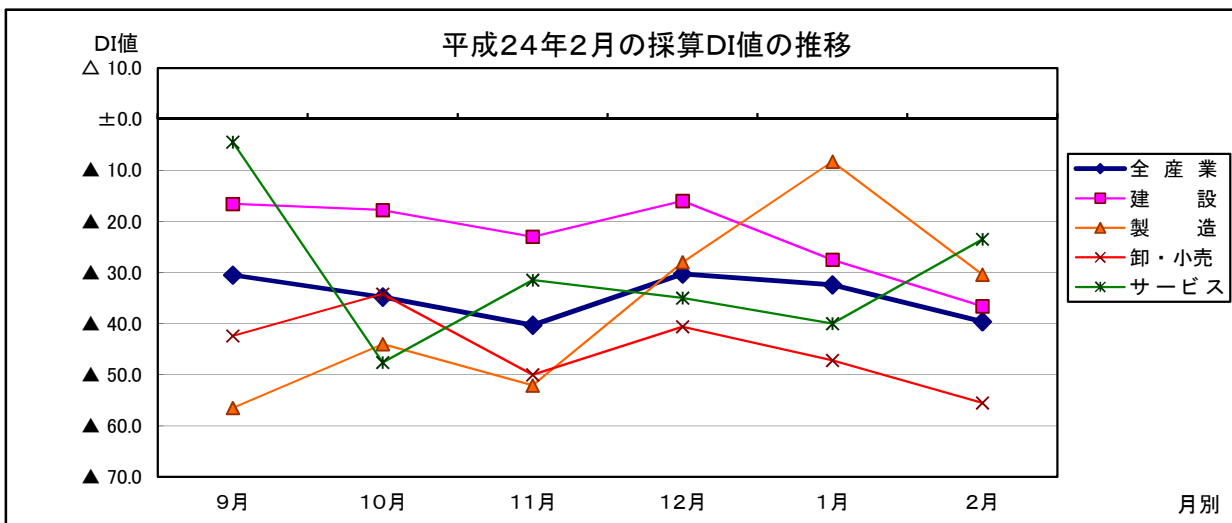
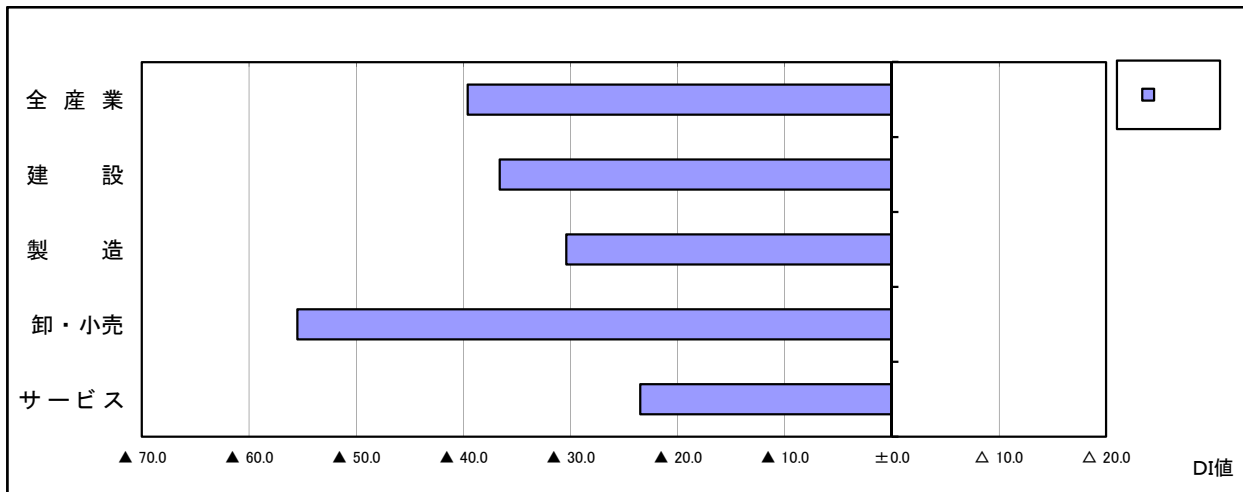
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲23.5(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲30.4(同▲8.3)、建設業▲36.6(同▲27.5)、卸小売業▲55.5(同▲47.2)である。特に、製造業はマイナス幅が▲22.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が6.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.0(同▲24.1)、サービス業▲29.4(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.4(同▲16.6)、製造業▲4.3(同▲4.1)である。

平成24年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲30.5	▲34.8	▲40.3	▲30.3	▲32.4	▲39.6	▲15.0(▲21.0)
建設	▲16.6	▲17.8	▲23.0	▲16.0	▲27.5	▲36.6	▲10.0(▲24.1)
製造	▲56.5	▲44.0	▲52.1	▲28.0	▲8.3	▲30.4	▲4.3(▲4.1)
卸・小売	▲42.4	▲34.2	▲50.0	▲40.6	▲47.2	▲55.5	▲19.4(▲16.6)
サービス	▲4.5	▲47.6	▲31.5	▲35.0	▲40.0	▲23.5	▲29.4(▲40.0)



【平成24年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.9(前月水準▲32.4)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大縮小した。

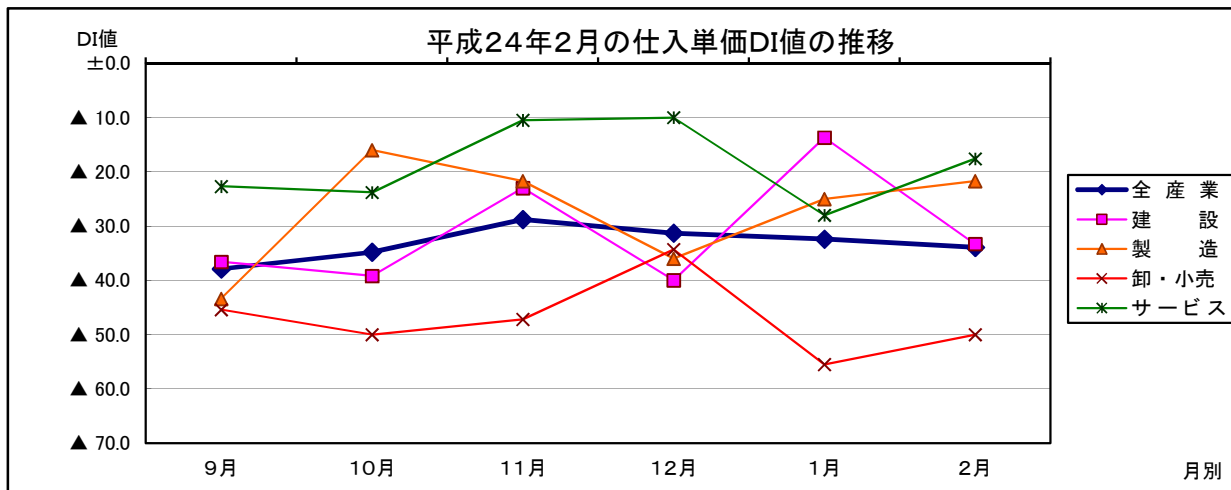
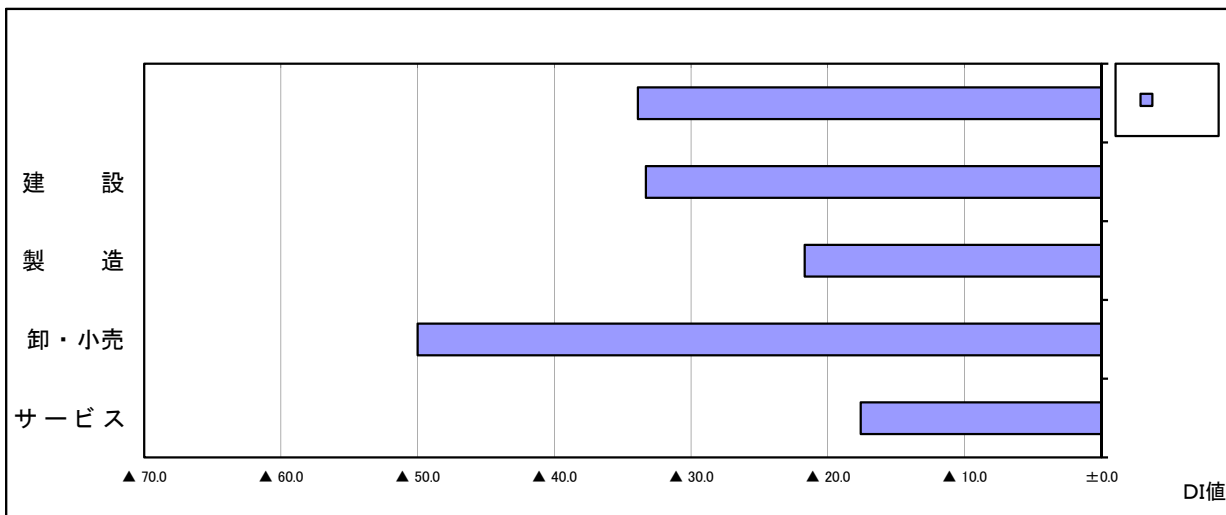
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲17.6(同▲28.0)、卸小売業▲50.0(同▲55.5)、製造業▲21.7(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲33.3(同▲13.7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.6(前月水準▲21.0)となり、マイナス幅が▲1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲27.7)、サービス業▲17.6(同▲16.0)、製造業▲13.0(同▲12.5)である。

平成24年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲37.9	▲34.8	▲28.8	▲31.3	▲32.4	▲33.9	▲22.6(▲21.0)
建設	▲36.6	▲39.2	▲23.0	▲40.0	▲13.7	▲33.3	▲20.0(▲24.1)
製造	▲43.4	▲16.0	▲21.7	▲36.0	▲25.0	▲21.7	▲13.0(▲12.5)
卸・小売	▲45.4	▲50.0	▲47.2	▲34.3	▲55.5	▲50.0	▲33.3(▲27.7)
サービス	▲22.7	▲23.8	▲10.5	▲10.0	▲28.0	▲17.6	▲17.6(▲16.0)



【平成24年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、0.9(前月水準▲0.8)となり、プラス方向へ1.7ポイント拡大した。

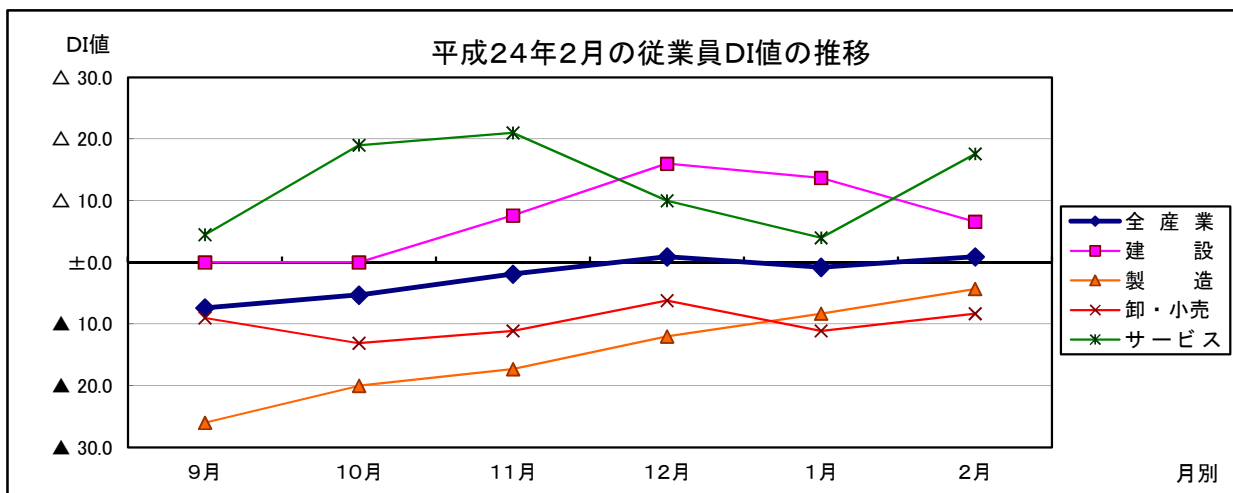
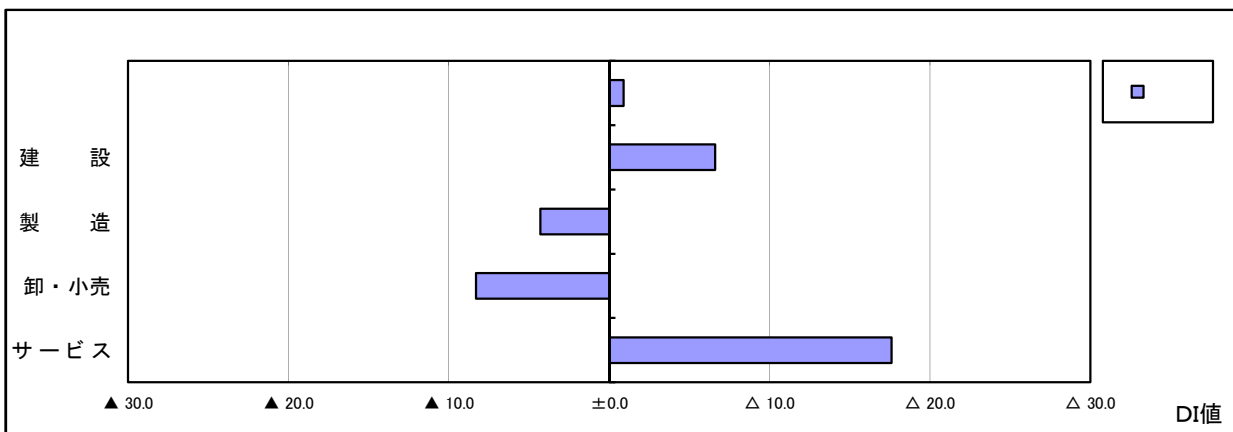
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業17.6(同4.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲4.3(同▲8.3)、卸小売業▲8.3(同▲11.1)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業6.6(同13.7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、0.9(前月水準0.8)となり、プラス幅が0.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業23.5(同±0.0)であり、プラス幅が23.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。変らない見通しの業種は、卸小売業▲8.3(同▲8.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は建設業6.6(同17.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は製造業▲8.6(同▲4.1)である。

平成24年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲7.4	▲5.3	▲1.9	△0.9	▲0.8	△0.9	△0.9(△0.8)
建設	±0.0	±0.0	△7.6	△16.0	△13.7	△6.6	△6.6(△17.2)
製造	▲26.0	▲20.0	▲17.3	▲12.0	▲8.3	▲4.3	▲8.6(▲4.1)
卸・小売	▲9.0	▲13.1	▲11.1	▲6.2	▲11.1	▲8.3	▲8.3(▲8.3)
サービス	△4.5	△19.0	△21.0	△10.0	△4.0	△17.6	△23.5(±0.0)





【平成24年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大した。

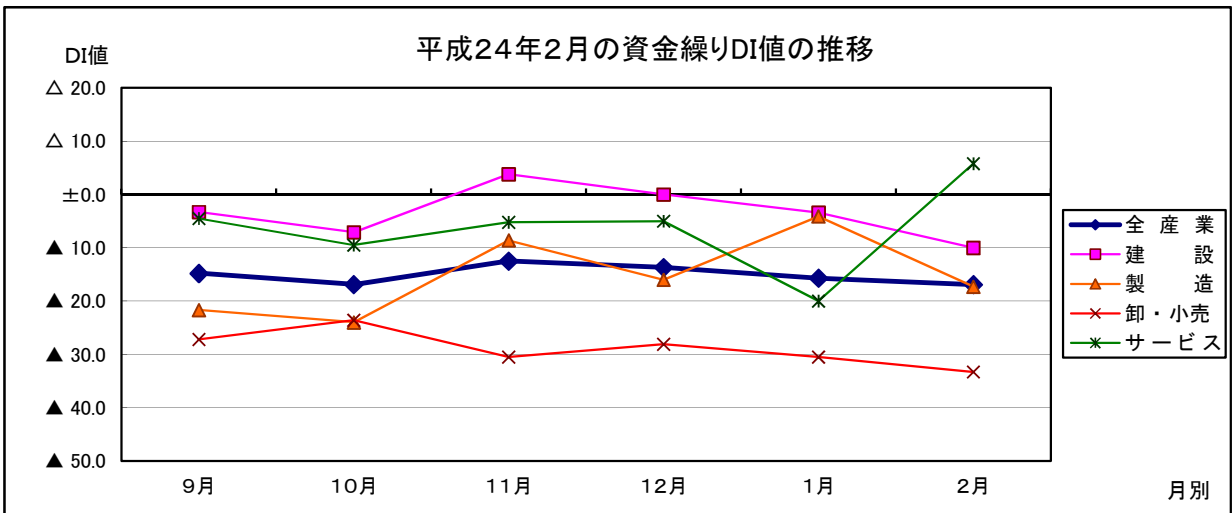
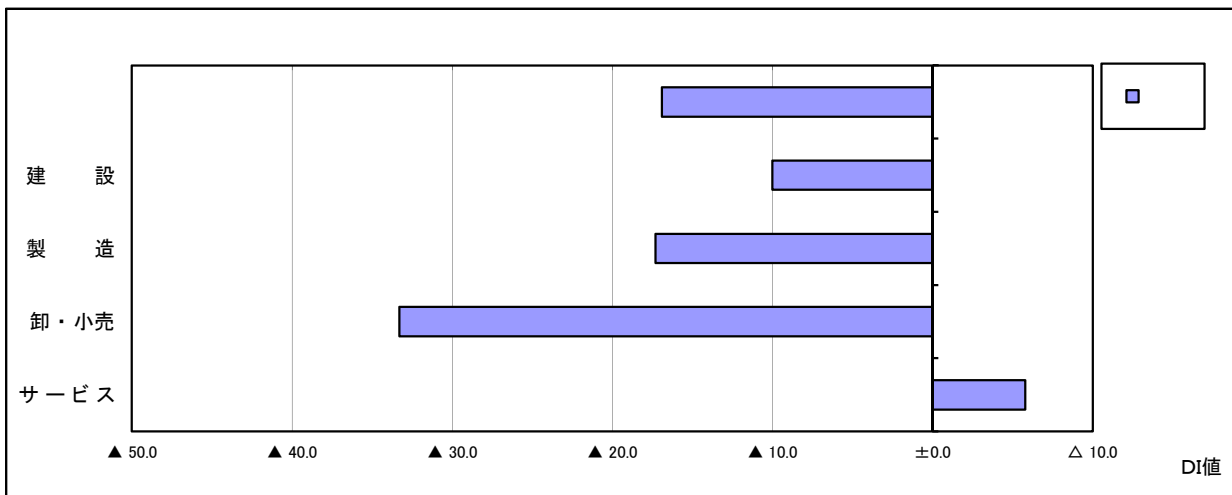
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業5.8(同▲20.0)であり、25.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.3(同▲4.1)、建設業▲10.0(同▲3.4)、卸小売業▲33.3(同▲30.5)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲19.2)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲32.0)、建設業▲6.6(同▲13.7)、製造業▲4.3(同▲8.3)、卸小売業▲19.4(同▲22.2)である。特に、サービス業はマイナス幅が32.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成24年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 9月	10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲14.8	▲16.9	▲12.5	▲13.7	▲15.7	▲16.9	▲9.4(▲19.2)
建設	▲3.3	▲7.1	△3.8	±0.0	▲3.4	▲10.0	▲6.6(▲13.7)
製造	▲21.7	▲24.0	▲8.6	▲16.0	▲4.1	▲17.3	▲4.3(▲8.3)
卸・小売	▲27.2	▲23.6	▲30.5	▲28.1	▲30.5	▲33.3	▲19.4(▲22.2)
サービス	▲4.5	▲9.5	▲5.2	▲5.0	▲20.0	△5.8	±0.0(▲32.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 37.7	▲ 10.3	▲ 39.6	▲ 15.0	▲ 33.9	▲ 22.6	△ 0.9	△ 0.9
建設	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 36.6	▲ 10.0	▲ 33.3	▲ 20.0	△ 6.6	△ 6.6
製造	▲ 30.4	±0.0	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 21.7	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 8.6
卸・小売	▲ 52.7	▲ 11.1	▲ 55.5	▲ 19.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3
サービス	▲ 47.0	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 17.6	△ 17.6	△ 23.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 33.0	▲ 19.8	▲ 16.9	▲ 9.4
建設	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 6.6
製造	▲ 26.0	±0.0	▲ 17.3	▲ 4.3
卸・小売	▲ 52.7	▲ 30.5	▲ 33.3	▲ 19.4
サービス	▲ 23.5	▲ 23.5	△ 5.8	±0.0

【平成24年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	4年以内に70%の確率で直下型地震のTV放映されてから、耐震補強への関心が高まった。復興支援・住宅エコポイントに新たに耐震改修が加わった	耐震補強 復興支援 住宅エコポイント	一般土木建築工事業
	仕入材料の単価上昇と積算単価に差があり採算が取れない。仕事の量は増加してきているが売上高にむすびつかない	仕入単価上昇 不採算	電気工事業
	今後の放射線の除染工事の発注が増加	除染工事	土木工事業
	寒い日が続く塗料の乾燥が悪かったり仕上げをやり直したりなど、予定以上の人員がかかってしまい、採算が合わない状況があった	天候の影響 経費増加 不採算	塗装工事業
	やはりイベントの集客数は減少している。色々な問題点は考えられるが、柏に特化した場合、ホットスポットのマスコミの報道に翻弄されている感は見逃せないと思います。ただ、国の政策で「東日本大震災復興木のいえ整備促進事業」にて、柏市と、野田市が遅れの2月22日に「特別の財政援助及び助成に関する法律」に基づく「特定被災区域」に指定されましたが、工事費の一部の助成金の申請締め切りが、わずか1週間後の2月29日必着が条件の為、色々な書類作成と、あまりにも短期間の為、お客様の説明納得には至らなかったという事がありました。国も景気活性化のための良い政策を打ち出しても、柏や野田の様に期限ギリギリの区域指定ではあまりにも性急すぎて役に立てることができませんでした。それと、この政策決定を知っていた柏、野田の業者の方は何社いたでしょうか？放射能の不安を掻き立てるような報道ばかりをしているマスコミ関係者に、なぜこの様な前向きな報道をしてくれないかと、憤りを感じてしまいます。マスコミの報道によっては、これから住まいづくりを考えている人には、少なからず朗報となるはず。会議所としてもこの様な情報をいち早くキャッチして会員、特に建設関係の会社に、情報発信して欲しいという一抹の期待	集客減少 ホットスポット 特定被災区域の指定	建築工事業
	相変わらず業者職人不足が続いている。毎日の応援要請対応が大事な課題となっている。一日でも一人でも手伝わってもらいなんとか工期に間に合わせている状況である。ただ年度末が近くなりちょっと落ち着いてきたような感じではある。材料費は相変わらず高騰を続け受注単価はむしろ下がっている。薄利多売といった業況である。工期に間に合わせるための職人の確保のため余計な出費も出ている。材料値上げの状況をゼネコン設計役所へ交渉するよう要請しているが直接使用する工事業者への申請なので困っている。見積もりはかなりあるが厳しい単価であり、適正価格で見積もりしても値引等で結局は発注単価は下落となっている	人員不足 材料費高騰 受注単価下落 薄利多売 適正価格 値引き	その他の職別工事業
	2月は気温の低下による都市ガス販売量増加(対前年4%)傾向。家庭での節電・環境負荷低減を実現する、家庭用発電・給湯・暖房システム(商品名:エネファーム・エコウィル)の販売に向け活動を展開する。	天候の影響 節電	ガス業
	千葉県内の同業者の組合が去年1年間で倒産や資金難で8社退会しました。(現在60社・最盛期160社)先月も白井にあった工場が倒産しました。建築の製造業は仕事はあれども採算が取れない状態です。	同業者倒産 資金難 不採算	鉄骨鉄筋工事業
	寒い時期なので畳工事の注文が少なく売上減少。アパートの畳工事の注文に期待。畳小物の販売は横ばい。和室が素敵な料理屋に展示してもらうことになった	天候の影響 売上減少	内装工事業
	設備投資関連に若干持ち直しがあつたが、先行きは不透明。	設備投資 先行き不透明	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
景気が改善しない。食品業界からは大きな変化、好転へのきざしはきこえてこない	景気停滞	その他の機械・同部品製造業	
ウイスキー類、焼酎類の売上減少。(料飲店の消費が減少か?)。低アルコール缶は前年並み。	売上減少	酒類製造業	
来月に期待。今月はどこにかくひどかった	業況悪化	印刷業	
為替等の影響にて、客先の国内設備投資抑制の傾向が大きく、大変厳しい状態です	為替の影響 設備投資抑制 厳しい業況	金属加工機械製造業	

【平成24年2月の業種別業界内トピックス】

製造	円高による大手製造業の海外生産へのシフトによる中小零細の製造業への受注減・売り上げ減少に対応する制度融資の追加はないのだろうか？このままですとプロパーで融資してくれる銀行がなくなりそうです。信用保証協会の保証がつかない融資は非常に困難です。自助努力で決算黒字をだしても、運転資金がままならないと黒字倒産も多発するでしょう。新しい無担保控の政府保証制度の追加を早期に望みます。仕事の予定はあるが実際に発注までならない。3月の年度末工事で多少動いたが波がある	円高 海外生産 売上減少 資金難	その他の金属製品製造業
	受注増にともなう運転資金不足が見込まれています	年度末工事	建築用・建設用金属製品製造業
	景気回復の兆しあり。今後に期待しています	受注増加 運転資金不足	電子応用装置製造業
	直近に予定されている「電気料金値上げ」工場だけで年間数百万円のアップとなり利益圧迫は必至。材料費アップ、電気代アップと利益圧迫材料が出過ぎ状態。企業努力だけではどうなるか不安。	景気回復 電気料金値上げ 利益圧迫	その他の機械・同部品製造業 紙製容器製造業
卸小売	大口の電気料金の値上げが実施されると節電だけでは対応できず営業時間や他の経費も見直しが必要になってくる。除染作業を見ているとこの先の生活も大丈夫なのか不安になっているお客様も多いようだ	電気料金値上げ 経費見直し 除染 先行き不安	その他の各種商品小売業
	1月度は天候に恵まれずも、前年売上を上回る結果であった。お客様の買い上げ単価の上昇が感じられる。2月度も、セールの前倒しを行ったり、世の中の動きに合わせた細かな施策を盛り込み、後半に備えている。	天候の影響 客単価上昇 セール前倒し	百貨店
	2月中旬までイベントを開催、客数は好調に推移したものの、商材不足に加え、寒気が長引いたことから梅春物が鈍化し、売上高は低調な推移となった。バレンタイン商戦は昨年降雪であった影響や、フェアを拡大したことからの好調であった。中旬以降、春のリニューアルに向け休業する店舗が多い状況となっているが、来店客数も前年を維持しており、売上高も好調に推移している。後半は更に休業店舗が出てくるため、苦戦が予想されるが、館内サインなど強化するほかニーズに合った商材を打ち出し、売上に繋げていく	イベント 客数好調 天候の影響 商材不足 売上高低調 バレンタイン商戦	その他の各種商品小売業
	柏からの客離れが深刻。気候の影響(寒さ)による飲食品、生花など仕入値の高騰あり。節電の効果が消える4月からの電気代値上げの対策が必要	客離れ 天候の影響 仕入単価高騰 電気料金値上げ	その他の各種商品小売業
	放射能の影響による人口減が心配である。また東葛地区の農家への風評被害も気になる。抜本的な対策をお願いしたい。冬場の電力不足はどうなっているのか？原発を止めさせないためのウソだったのか？計画停電で大打撃をくらった企業に詫言ひて欲しい	放射能の影響 人口減少 電力不足 風評被害	各種食料品小売業
	2月に入っても好材料は見当たりません。イベントも昨年より下回りますまず厳しくなるのではないかと先行き不安になります。相変わらずの不況に震災、原発事故などの影響で厳しい業況が続いています。明るい兆しが全く見えないのが現状です。どんな対応策をうてば改善されるのかその道筋さえ見えません。社会的に見ても消費税に社会保障の問題など景気回復の材料はなく中小企業、小売店を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。生き残りをかけてなんとか頑張らなくてはと思っていますが…	業況悪化 先行き不安 放射能の影響 消費税 厳しい業況	菓子・パン小売業
	売上の減少に歯止めがかからないような状況です	売上減少	農畜産物・水産物卸売業
	相変わらず競合店の進出が続いている	競合店進出	その他の各種商品小売業
	2月の売上は更に減少。寒さのせいもあり来客数も少なくなったがここ何年もなかったくらいの売上減少。原因を考えてみると、食べ放題などの安い店舗にお客様が行ってしまっているのか	売上減少 天候の影響 安売り店舗	農畜産物・水産物卸売業
	前月同様寒冷日都築から主要品目特に葉物は高騰していますが、総体的入荷量が少ない。果実は寒冷地の生産品生産品、りんごイチゴが大幅入荷。高値推移しています。また原発事故に伴う地場野菜の検査の案内を頂き安心した販売に努めています。放射能の影響か、景気低迷か、風評被害の不安から青果物は摂取量が減少している。このことが将来への健康阻害にならぬよう市場の使命と問題意識した販売に努めたい	天候の影響 葉物高騰 入荷量減少 果実高値推移 原発の影響 放射能の影響 風評被害	食料・飲料卸売業
新車の補助金が正式に始まりましたので受注が昨年度以上に伸びています	車輻購入補助金 受注増加	自動車小売	

【平成24年2月の業種別業界内トピックス】

	今年に入りLPガス、灯油の仕入単価がどんどん上昇して厳しいが、同業他社の改正なく価格転嫁なし。価格改正はおろか従来以上に取り組みが必要である	仕入単価上昇 価格転嫁	燃料小売業
サービス	前年同月と比較したときは好転しているが、実感と言えは取引企業の倒産など景況は悪化しているように思う。	取引先倒産 業況悪化	酒場・ビヤホール
	3月11日の震災により向こう3ヶ月の先行先行きは比較にならず。マーケットは依然冷え込んでいると思われる。放射能の影響で野菜が若干値上がり傾向又、トマトダイエット(脂肪を付きにくくする)がテレビで放送されてから、トマトが入手しにくくなった。対前々年で宿泊稼動を上げているが、経路別ではインターネットからの予約が増え、一室単価は減少。食事を伴う宴会は未だ厳しい。放射能の影響で少なくなっていた外人客は戻りつつある	震災の影響 放射能の影響 天候の影響 野菜値上がり インターネット予約増加 宴会不調 外国人客戻り	ホテル
	個人旅行は国内が盛り返してきた。法人需要も先行受付は堅調に推移	国内旅行増加 法人需要堅調	旅行業
	国が県がある一定の時期に来て、この地区の放射能汚染の終結宣言でも出さない限り、この地域の不動産業界の先行きの見通しは暗い。市内の除染作業がある程度終了しても、柏にすぐ人口が戻ってくるのか疑問である	放射能の影響 先行き不安 除染作業 人口回復疑問	不動産代理業・仲介業
	放射能の影響で来店客数や問合せ数が減少しています	放射能の影響 来店客数減少	不動産管理業
	ついに放射能が原因とみられる集合住宅の退去者が出ました。本建物の除染だけではだめで、街全体に不安があるようです	放射能の影響 退去者 除染作業	不動産賃貸業
	テナント入居していた店舗が閉店することになりました。他レジデンス系は入居入れ替え時期ですが順調です	テナント閉店 レジデンス順調	不動産賃貸・管理業
現況は相変わらずで悪く、来年度を迎えるのが恐ろしい状況です。単価割れや人余りが続々発生すること必至です。ただ、最新の技術を有するIT技術者は不足してるが、悔しくもそれに対抗する玉が育成できておらず。事態、解っていても戦略武装が調えず、大手IT企業には叶わないのか、来年度に向けて、対抗策を描く必要ありと思う。東大阪の「まいど」のように柏地元企業がコラボで、打ち上げたいものです。	業況悪化 単価割れ 技術者不足	ソフトウェア業	

### ◎放射能の影響

- ・ 今後の放射線の除染工事の発注が増加 土木工事業
- ・ 放射能の影響による人口減が心配である。また東葛地区の農家への風評被害も気になるようです。抜本的な対策をお願いしたい。冬場の電力不足はどうなっているのか？ 各種食料品小売業
- ・ 2月に入っても好材料は見当たりません。イベントも昨年より下回ります。ますます厳しくなるのではないかと先行き不安になります。相変わらずの不況に震災、原発事故などの影響で厳しい業況が続いています。明るい兆しが全く見えないのが現状です。どんな対応策をうてば改善されるのかその道筋さえ見えません。社会的に見ても消費税に社会保障の問題など景気回復の材料はなく中小企業、小売店を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。菓子・パン小売業
- ・ 国か県がある一定の時期に来て、この地区の放射能汚染の終結宣言でも出さない限り、この地域の不動産業界の先行きの見通しは暗い。市内の除染作業がある程度終了しても、柏にすぐ人口が戻ってくるのか疑問である 不動産代理業・仲介業
- ・ ついに放射能が原因とみられる集合住宅の退去者が出ました。本建物の除染だけではだめで、街全体に不安があるようです 不動産賃貸業

### ◎天候の影響

- ・ 寒い日が続く塗料の乾燥が悪かったり仕上げをやり直したりなど、予定以上の人員がかかってしまい、採算が合わない状況があった 塗装工事業
- ・ 2月は気温の低下による都市ガス販売量増加(対前年4%)傾向。家庭での節電・環境負荷低減を実現する、家庭用発電・給湯・暖房システムの販売に向け活動を展開する。 ガス業
- ・ 柏からの客離れが深刻。気候の影響(寒さ)による飲食品、生花など仕入値の高騰あり。節電の効果が消える4月からの電気代値上げの対策が必要 その他の各種商品小売業
- ・ 前月同様寒冷日続きから主要品目特に葉物は高騰していますが、総体的入荷量が少ない。果実は寒冷地の生産品生産品、りんごイチゴが大幅入荷。高値推移しています。 食料・飲料卸売業
- ・ 3月11日の震災により向こう3ヶ月の先行先行きは比較にならず。マーケットは依然冷え込んでいると思われる。放射能の関係と天候の影響で野菜が若干値上がり傾向。又、トマトダイエットがテレビで放送されてから、トマトが入手しにくくなった。 ホテル

### ◎売上減少


- ・ 寒い時期なので畳工事の注文が少なく売上減少。アパートの畳工事の注文に期待。畳小物の販売は横ばい。 内装工事業
- ・ ウイスキー類、焼酎類の売上減少。(料飲店の消費が減少か?)。低アルコール缶は前年並み。 酒類製造業
- ・ 売上の減少に歯止めがかからないような状況です 農畜産物・水産物卸売業
- ・ 2月の売上は更に減少。寒さのせいもあり来客数も少なくなったがここ何年もなかったくらいの売上減少。原因を考えると、食べ放題などの安い店舗にお客様が行ってしまっているのか 農畜産物・水産物卸売業











## 平成24年2月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.0に対し、「CCI-LOBO」が▲33.4で、柏の方がマイナス幅が0.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.7に対し、「CCI-LOBO」が▲29.0で、柏の方がマイナス幅が8.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.6に対し、「CCI-LOBO」が▲33.1で、柏のほうマイナス幅が6.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・製造業・卸小売業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.9に対し、「CCI-LOBO」が▲21.6で、柏の方がマイナス幅が12.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が0.9に対し、「CCI-LOBO」が▲2.8で、柏の方が3.7ポイント良い。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業はは10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲19.5で、柏の方がマイナス幅が2.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。











# 平成24年2月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.0	 20.0	 26.0	 52.7	 23.5
CCI LOBO	 33.4	 29.1	 27.6	 42.0	 36.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.7	 20.0	 30.4	 52.7	 47.0
CCI LOBO	 29.0	 24.7	 20.2	 36.8	 33.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 39.6	 36.6	 30.4	 55.5	 23.5
CCI LOBO	 33.1	 35.2	 26.7	 37.2	 36.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.9	 33.3	 21.7	 50.0	 17.6
CCI LOBO	 21.6	 30.0	 26.1	 15.1	 23.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 0.9	 6.6	 4.3	 8.3	 17.6
CCI LOBO	 2.8	 5.7	 4.8	 0.3	 0.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.9	 10.0	 17.3	 33.3	 5.8
CCI LOBO	 19.5	 21.9	 15.3	 24.0	 22.1

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目



# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成24年2月16日～22日

調査対象：全国の415商工会議所が2785業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

#### 業況DIは足踏み状態が続く

2月の全産業合計の業況DIは、33.4と、前月から1.5ポイントと3カ月ぶりの悪化。製造業を中心に超円高に伴う輸出減少等の影響により、2011年10月以来、業況DIは35前後で足踏み状態に陥っている。

先行きについては、先行き見通しDIが28.2（今月比+5.2ポイント）と、改善する見込み。海外経済の回復や超円高の是正、年度末・新年度を迎えることによる消費への期待感がでている。一方、第二次補正予算による復興需要の波及効果は徐々に及んでいるものの、本格化には至っていないことに加え、依然として厳しい水準にある円高や原油等の原材料価格の高止まりにより、先行きを懸念する声も多い。

産業別にみると、業況DIは、建設業、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種はマイナス幅が拡大。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「復旧・復興工事の増加に伴い、鉄筋、型枠の職人や重機オペレーターが不足している」「一般工事業」、「豪雪により、土木工事現場での除雪費用の負担が増大」(一般工事業)、「住宅エコポイント制度に加え、市独自の住宅リフォーム補助金により、リフォーム工事が増加」(一般工事業)

【製造業】「円高の影響で、中近東向けの輸出品(生地)が落ち込んでいる」「織物製造業」、「円高に伴い、取引先からの単価の値下げ要請が強まっている」(計量器・測定器製造業)、「取引先の海外生産の加速に対応するため、自社も海外工場の生産能力を増強する計画」(自動車部品製造業)

【卸売業】「今年に入り鋼材の在庫が増加、流通価格が下落している」(鋼材卸売業)、「寒波により野菜の出荷量が減少。仕入価格が高騰しているが、価格転嫁は困難」(食品卸売業)、「建築資材

の需要が拡大しているが、確保が難しい状況が続いている」(建築材卸売業)

【小売業】「厳しい寒さの影響で春物衣料の動きが鈍い」(商店街)、「イラン問題が原油価格の高騰に繋がることを懸念」(燃料小売店)、「仕入先の海外調達が多くなっているため、商品の欠品期間の長期化、入荷遅れなど、販売に支障が出ている」(スポーツ用品店)

【サービス業】「大雪の影響で客足が落ち込んでおり、今後の資金繰りを懸念」(飲食店)、「地元の輸出関連企業の不振によりビジネス客が減少。客室の稼働率が悪化している」(旅館)、「土木・建設業の現場作業員と競合することから人材確保が当面の課題」(警備業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
見通し	▲28.2	▲33.3	▲25.4	▲20.5	▲33.7	▲25.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI